

福島の学童保育

— 役場機能移転の町村役場・学童保育を訪ねて

阿部 澄

福島県学童クラブ連絡協議会 事務局長

二〇一二年六月三日、私たちは福島県学童クラブ連絡協議会を結成しました。結成後、「震災と原発事故で多くの困難を抱える県内の学童保育の実情を把握し、課題をあきらかにすること」を活動の柱の一つにすえました。そして、二〇一二年一月二三日・一四日と二月一〇日・一二日の二回にわたり、全国学童保育連絡協議会（以下、全国連協）と合同で、双葉郡八町村（学童保育がもともとなかった川内村と葛尾村はのぞく、富岡町・大熊町・楢葉町・浪江町・双葉町・広野町）と、飯館村、会津若松市、いわき市を訪問しました。

双葉郡八町村は福島第一原子力発電所から二〇（三〇キロメートル）のところに位置し、役場機能ごと移転せざるを得ませんでした。また、原発から四〇キロのところにある飯館村は、原発事故後の風の向きにより放射能に汚染され、役場ごとの移転を余儀なくされました。

◆富岡町は現在、郡山市に役場をおいています。二〇一〇年に全国連協が行った学童保育の箇所数調査（以下、調査）では、公営三か所、二一一名の子どもたちが通っていましたが、現在は郡山市内の仮設住宅集会所を利用して学童クラブを一か所開設しています（三〇名定員。現在は一七名が利用）。子どもたちは全国各地に避難しており、放課後の生活までは把握できていないとのことでした。

◆大熊町は現在、会津若松市に役場をおいています。二〇一〇年の調査では公営二か所で一九五名の子どもの保育を行っていましたが、現在は役場の二階にある一室で預かったり、NPOの学童保育を利用（二五名前後）してもらっているそうです。

◆楢葉町は当初、会津美里町に避難していましたが、現在、いわき市に役場をおき、二〇一三年一月に仮設校舎の小学校

を開校しました。二〇一〇年の調査では社会福祉協議会委託二か所で一四六名の子どもたちが通っていましたが、現在は会津美里町内の仮設住宅の「ふれあい館」（平日に五〜六名が利用）といわき市内の仮設住宅敷地内のサポートセンターで子どもたちを受け付けています（二〇名程度が利用）。

◆浪江町は現在、二本松市に役場をおいています。二〇一〇年の調査では公営六か所で二二五名の子どもの保育を行っていましたが、現在は避難先をいわき市に移す人が多く、学童保育はありません。

◆広野町は町内の除染が終わり、居住が可能となり、役場は広野町本庁に戻りました。二〇一〇年の調査では公営一か所で二〇八名の子どもたちを保育していました。現在は保育所も児童館（学童保育を実施）も再開されましたが、ともに利用は五名程度です。小学校も再開してい

ますが、戻ってきた子どもたちは六五名と以前の四分の一です（町内に住んでいる子どもは少なく、いわき市の避難先からスクールバスを利用して通っている子どももいます）。

◆双葉町は、埼玉県加須市に役場機能ごと移転しました。二〇一三年二月には、いわき市内に移転する予定です。二〇一〇年の調査では公営一か所、四一名の子どもたちが利用していました。いわき市に避難している家庭が多いそうです。

◆飯館村は福島市に役場をおいています。二〇一〇年の調査では公営二か所で六一名の子どもたちを保育していました。現在は仮役場近くの仮設専用施設で再開しています。

* * *

今回の訪問でわかったのは、双葉郡の避難している方たちの多くがいわき市に集中し、学童保育の利用を希望していることです。そのため、いわき市内の学童

クラブでは現在、入所する子どもが増えており、受け入れに苦慮しています。二〇一三年度の利用者数も四〇〇名ほど増える見込みで、さらにたいへんな事態になることが予想されます。この件について私たちは福島県担当課と懇談し、「双葉郡といわき市の子どもたちが安定した放課後をおくることができるよう、国と県で可能なかぎりの財政支援を行い、学童保育を増やしてほしい」旨、お願いしました。

放射能被害は先が見えず、町や村の復興に向けての動きは簡単にできるものではありません。お話をしてくださった担当の方々のご苦労ややさしさが伝わってくる訪問でした。

この厳しい現実のなかでも、子どもたちが安心して放課後を過ごせるように、指導員は研修を重ね、保護者、学童保育関係者の皆さんと力をあわせなければと思っています。